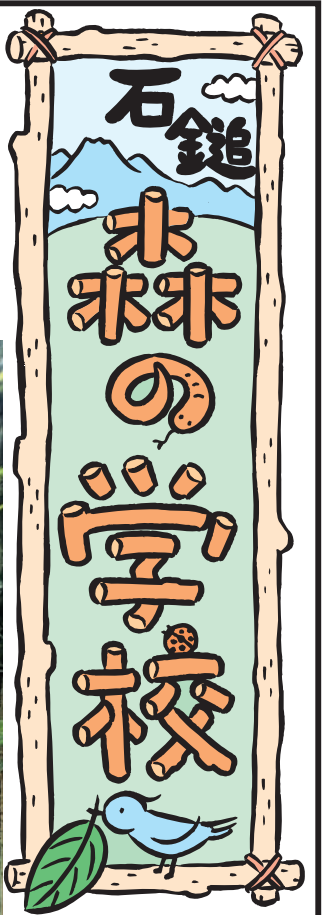




【石鎚山の学校】VOL.15
2019年秋号
発行日 2019年10月
制作 NPO法人 石鎚山の学校
〒793-0062 西条市西田甲797番地
Tel & Fax 0897-52-5275
URL <http://ishizuchi.net/>

10名の皆さんにご参加いただき、成就周辺の自然を散策しました。涼やかで過ごしやすい、猛暑の街中とは別天地。ブナの森の空気のリフレッシュしていただきました。今回は講師の北添伸夫さん（自然のプロカメラマン）からデジタルカメラをお2人に貸与してもらって撮影を行い、SDカードがプレゼントされました。

石鎚山の学校2019夏 ブナの森の 自然観察会

令和元年8月18日（日）



▲最初に全員が自己紹介



▲北添さんの指導でカメラ撮影にも発見が



▲リフトの最高地点から成就社への道



神社建築の特徴は…



カブトムシドームの
カブたち



キンゲンショウマが見頃



ブナの大木が見られる第二園地で観察



キンミズヒキ

◆石鎚山お山開き案内人活動

（令和元年7月1日～9日）



ご支援ありがとうございます

石鎚山の学校は14年目を迎えました！この新聞に紹介させていただいた活動は、皆さまのご参加・ご協力ならびに、会員の皆さまの会費・寄付金などによって支えていただいております。今後ともよろしくお願いいたします。新規のご入会もお待ちしております。

正会員76名／年会費5千円
賛助会員61名／年会費3千円
団体会員4団体／年会費3万円
（令和元年8月末現在）

団体会員様（順不同）
セキ(株)
(有)石鎚観光(成就)
(有)石鎚観光(土小屋)
(株)愛媛銀行

◆登山靴がかすめる希少植物

瓶ヶ森の頂上に着いた人はササ原の彼方に広がる雄大な眺望に歓声を上げる。丈の低いササ原は樹林のように登山者の視界を遮らないからだ。ところでササ原の中にはササ以外の植物はほとんど出現しない。密生したササの葉が日差しを遮り、ほかの植物は発芽できないためだ。よって、草丈の低い高山性植物の多くはササ原を避けて岩の隙間や登山道沿いの法面に隠れるように生育している。

登山者はすれ違う際に路肩に踏み込むこともあるだろうし、写真撮影や休憩のために登山道沿いの岩場に立ち入ることもあるだろう。しかし、そのような場所こそ希少植物が多く生育する場所だ。瓶ヶ森に登るとき、時には足元の小さな植物に目を留めてほしいと願う。彼らはそこしか生育できる場所がないのだから。（松井宏光 石鎚山の学校理事、愛媛植物研究会会長）



登山道ぞいのタカネオトギリ（左）とマイヅルソウ



撮影ポイントの岩場で咲くイワキンバイ（左）とチャボツメレンゲ



国民の祝日として「山の日」が制定されて4年目となり、環境啓発親子登山も恒例イベントとなりました。登山教室

（主催）愛媛県山岳・スポーツクライミング連盟、愛媛県、石鎚山クリーンアップ協議会、愛媛県石鎚山系エコツーリズム推進協議会
（参加者）総計180名 児童（小学校4～6年生）とその保護者、県担当課職員、講師、看護師、県内山岳関係団体のボランティアスタッフ
（事務局参加者）曾我部英司事務局長、岩本昌美事務局スタッフ、藤原隆子・秋山一幸両サポートスタッフ

も兼ねるかたちで、家族で山を楽しみたいと希望する親子100名を募集したところ、定員を大幅に超える申し込みをいただき、150名の参加で催行することになりました。安全を確保しながら登山を体験し、しっかりと自然に親しんでもらうために、スタッフも30名の体制です。全体を2チームに分けて別のコースを進むとともに、各チームを班分けして班単位で行動しました。駐車場から出発し、2チームがコースを変えて男山、女山山頂と瓶ヶ森を巡って下山するという行程です。女山山頂で2チームが合流し、講師より瓶ヶ森の自然についてのレクチャーを受け、下山時にも瓶ヶ森でレクチャー

を受けました。森の学校スタッフは、男山コースの3班のサポートと4班の班長を担当しました。平地では気温33度の猛暑日でしたが、瓶ヶ森ではそよ風がふき、太陽も適度に顔を隠してくれて25度前後となり、登山には絶好のコンディションの中、無事に全員がコースを巡りました。瓶ヶ森から駐車場に向かうところに霧が入り、閉会式後に小雨模様という天候でした。

「山を知り、山に親しみ、山の恩恵に感謝する」ことを目指す「山の日」。石鎚山に限らず、お近くの山の自然に触れることをお勧めします！



◆石鎚成就社黒川谷清掃 — 石鎚山系連携事業協議会事業 —

(平成30年10月20日)

今は通る人が少なくなりましたが、古道の一つである黒川道は、関門から黒川谷を登り、成就に至る道です。黒川谷には昭和55年に成就社境内が火災に遭った際のがれきなどが残り、数回は業者が撤去作業を行いましたが、搬送を含めてすべて人力に頼らざるを得ないため、ゴミが散乱する状況が続いていました。この状況を打開しようと、協議会の呼びかけで、一般ボランティア61名、西条市、久万高原町、いの町、大



川村の職員が参加し、ゴミを分別しつつ清掃を行ったところ、ゴミが土嚢袋に100個以上集まりました。次いで全員が登山道に並んで手送りでゴミの土嚢袋を運搬して搬送車に積み込み、ロープウェイで下谷駅まで下ろしました。多様な関係者の連携で実現した清掃でした。後日関係者に会うと、「あの清掃はたいへんだったね～」と話題になるほど。ご参加の皆さん、お疲れ様でした！



お山の環境を考えると、アクション

◆石鎚山系生物多様性保全推進シンポジウム

(平成31年2月11日)

平成30年度、愛媛県自然保護課が事務局となり、石鎚山系生物多様性保全推進協議会が発足しました。全国的に増加傾向にあるニホンジカの食害から石鎚山系を守ることが目的です。親しみのあるシカですが、増えすぎると、ササや樹皮も含む植物を食いつくすことにより、森林生態系に大きな影響をもたらします。約10年前に四国でも剣山系で土壌が流出するほどの食害が発生しました。近年、石鎚山系にもシカの食痕や糞が確認されるようになり、シカの本格的な進入・定着が始まっているようです。そこで、シカによる自然環境への影響を伝え、対策を考えるシンポジウムが開催されました。シカの影響調査や被害対策の研究者や、石鎚山系の関係者が登壇し、情報の共有が進められました。また、展示コーナーでは、当団体も活動紹介を行い、石鎚神社氏子立螺の会のご協力で山伏装束なども展示しました。協議会の活動は令和元年度も継続され、保全計画が検討されています。



◆愛媛県石鎚山環境啓発登山・秋季

(平成30年11月4日)

愛媛県石鎚山クリーンアップ協議会の主催で、一般ボランティアの皆さんおよび、同協議会の会員など130名が参加して行われました。参加者は成就ルート、土小屋ルートからゴミを拾いながら登山し、二の鎖元休憩所で合流。式典が行われ、当団体のリチャード（曾我部英司事務局長）がスピーチを行いました。この休憩所とエコトイレは4年前の11月に完成し、「日本一きれいな山岳トイレ」をキャッチフレーズに利用と清掃活動が進められ、関係者の協力と尽力によって、現在もキャッチフレーズ通りに維持管理されています。また、時代背景や全国的な登山マナーの向上によるものと思われていますが、この日は登山道にゴミがほとんどなく、森の学校スタッフが拾ったのは、当日のものと思われるティッシュ1片と土小屋ロータリー近くの車道で見つけたコーヒの空き缶2個だけでした！



◆森林保全活動

(平成30年11月7日、12月17日)

冬を前に毎年実施している森林保全活動を、えひめ千年の森をつくる会の鶴見恵子先生に指導をいただき、同会の皆さんのご参加を得て、総勢9人で行いました。当日は小春日和とはこんな日のことかと思わせる、穏やかな日差しに恵まれ、のどかな気分になるほど。昨年度と同様に、午前中は成就社社殿裏の丘の草刈りと枝打ち、午後は第2園地から石鎚



山頂上を望むベンチを覆っていたササを取り除く作業を行いました。振り返りでは笑いヨガの指導もいただき、活動を通して大いにリフレッシュすることができました。

さらに、12月17日、登山道沿いの4箇所に倒木を活用してベンチを設置しました。登拝の方々からリクエストを受けて事務局メンバーが行いました。防腐処理などは施さないで、いつかは朽ちて自然に戻るベンチです。ご活用ください。



石鎚山詣でが一般的になったのは江戸時代中期頃からとの説がありますが、おそらくはその頃から昭和50年代までは伝えられてきた

石鎚山詣でが一般的になったのは江戸時代中期頃からとの説がありますが、おそらくはその頃から昭和50年代までは伝えられてきた

石鎚山の風習

敬いながら、人々が協力し合って登拝する歴史が受け継がれ、石鎚山ならではの風習がありました。時代の変遷によって、見られなくなった風習も少なくありませんが、その気持ちは現在の登山の中に引き継がれています。

一の鎖、二の鎖、三の鎖と称する総延長230メートルにも及ぶ急峻な岩場に掛かる鎖の行場があります。(それぞれに迂回路があります。一の鎖から山頂に向けては、御神域の要に差しかかるため、この鎖元で下界を踏んだ草鞋を新しい草鞋に履き替えました。そのため、一の鎖元の登山道周辺には「草鞋塚」と呼ぶ草鞋の小山が散見できました。

また、明治初年まで活用された賽銭に「お鎖銭・松明銭」というのがあります。これは、表参道の古道沿いにある今宮集落を代表する季節宿・丸八の代々の主が入山者から徴収し、入山者の事故や不明者の捜索搬送保護費に充てたもので、現在は7月1日から10日までの山開き期間中の「登山保護料」としてこの相互扶助の制度が継がれています。

さらに「お祓い銭」という風習もあり、尾籠な話で恐縮ですが、石鎚山中で便意をもよおした場合、まず地面に紙を敷きその上に用を足し、紙を載せ賽銭を置いて神々に自分の行為の不浄を詫びたといえます。そのためかつては、登山道から少し離れたところに寛永通宝などを見つけることがありました。これはいわゆる「お祓い銭」だと考えられます。現在、二の鎖元に愛媛県が設置した公衆トイレもチップ制を導入していますが、まさにその前身ともいえるのかも知れません。

登拝の風習のひとつに「草鞋の履き替え」があります。

石鎚山には表参道から登ると、登山道に下から試しの鎖、一の鎖、二の鎖、三の鎖と称する総延長230メートルにも及ぶ急峻な岩場に掛かる鎖の行場があります。(それぞれに迂回路があります。一の鎖から山頂に向けては、御神域の要に差しかかるため、この鎖元で下界を踏んだ草鞋を新しい草鞋に履き替えました。そのため、一の鎖元の登山道周辺には「草鞋塚」と呼ぶ草鞋の小山が散見できました。

また、明治初年まで活用された賽銭に「お鎖銭・松明銭」というのがあります。これは、表参道の古道沿いにある今宮集落を代表する季節宿・丸八の代々の主が入山者から徴収し、入山者の事故や不明者の捜索搬送保護費に充てたもので、現在は7月1日から10日までの山開き期間中の「登山保護料」としてこの相互扶助の制度が継がれています。

さらに「お祓い銭」という風習もあり、尾籠な話で恐縮ですが、石鎚山中で便意をもよおした場合、まず地面に紙を敷きその上に用を足し、紙を載せ賽銭を置いて神々に自分の行為の不浄を詫びたといえます。そのためかつては、登山道から少し離れたところに寛永通宝などを見つけることがありました。これはいわゆる「お祓い銭」だと考えられます。現在、二の鎖元に愛媛県が設置した公衆トイレもチップ制を導入していますが、まさにその前身ともいえるのかも知れません。



氷点下の森の自然観察&雪遊び

(平成31年2月16日～17日)

案内人に北添伸夫さん(昆虫・天体のプロカメラマン)を迎え、森の学校スタッフを含め14名の参加者で、恒例の冬イベントを無事に実施しました。この「無事」というのは、「事故無く」はもちろんですが、降雪の少ない暖冬の今回は、「無事に雪があり」という意味でもあります。継続的に実施していると、お山の気候の変化にも気付かれます。成就の旅館に1泊するとあって、ご参加の皆様には、雪化粧した石鎚山の自然の夜の雰囲気や早朝の空気もたっぷり味わっていただきました。

